

# 英問英答からはじめる「英語で授業」



Hoshino Masahiro  
新潟県立長岡大手高等学校教諭 星野 真博

## 1 「授業は英語で」どこまで？

ご存知のように新学習指導要領では「授業は英語で行うことを基本とする」とある。しかし、この部分だけが一人歩きしてその前後の趣旨が忘れ去られている感があるのも事実である。授業を英語で行う目的は「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーション活動の場面とする」ためであり、コミュニケーションを伴わない英語教員の一方的英語使用は想定されていないと考えてよい。「グラマートランスレーション指導を徹徹底尾英語で行う」わけではないのだ。

実際、コミュニケーション英語Ⅰの内容では「事物に対する紹介や対話」や「説明や物語」を元に「情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする」言語活動を英語で行うことが求められている。文法項目は「用語や用法の区別などが指導の中心にならないように配慮し、実際に活用できるように指導する」という扱いで「言語活動と効果的に関連付けて指導すること」とある。

悲しいことに、研修会に参加したりインターネット上で調べたりしていると、文法指導を文法用語を含めて全部英語で行い、生徒から不評を買っている困った教員の存在があちこちで聞かれる。生徒は使いたい場面できちんと使い方を教えてもらえば auxiliary verbs という用語は知らなくても助動詞は使えるようになるし、subjunctive mood という用語を知らなくても仮定法を使えるようになるものだ。要は使いたくなる場面を設定し、使う言語活動を行うことが肝心である。

## 2 スモールステップ & スパイラル

今年度は *New Edition UNICORN ENGLISH COURSE I* を使って1学年を指導している。新学習指導要領に向けて1学年団は連携して指導計画を立てているが、キーワードはスモールステップとスパイラルである。この方針を打ち出した理由は、自宅学習の習慣が無い生徒が増え、難易度の高い課題を出しても基礎事項が定着しなかったからである。そこで自宅学習の習慣をつけさせるため、確実に出

来る量を確実に繰り返し行って自信をつけさせることにした。

例えば語彙指導の単語小テストも範囲は短く、回数は多く（週1回⇒毎時間）、難易度も下げて実施するようにした。週末課題の読み物も、量を減らした分、内容を授業でテストして確認するなど、きちんと読ませるようにしている。

少しがんばるとできる、という実感が生徒に自主的な学習を促す結果につながっている。休み時間など空き時間を利用して単語を覚える生徒が増え、単語テストの合格率は常に9割近い。また、読み物も全訳を要求していないにもかかわらず、丁寧に調べて訳してくる生徒が何人もいる。結果的に学年全体に学習する雰囲気形成されつつある。

授業においてもこのスモールステップとスパイラルの原則は生かされている。1学年は全クラス、英問英答を授業に導入しているが、このパートは指示から反応まで全部英語で行うことができ、実際、そうなることが多い。

## 3 英問英答 初期段階の例

初期段階では英問英答は概要把握に使っている。ここでは実際に Lesson 2 *Unique Sports* の *Kabaddi* で使った問題を見てみる。生徒には事前にこの質問が書かれた予習プリントが配っており、事前に答えを書いてくるように指示がしてある。

### Questions

1. In Kabaddi what does “the raider” do?
2. What is his aim?
3. What does he keep shouting?
4. What do the “stoppers” do?
5. Over 4,000 years ago, was Kabaddi a safe sport?

まだ入学して1ヶ月程度なので、キーワードには下線を引いてある。答えはキーワードの近くにある、と指摘しておくことは、後にスキニングやスキミ

ングのアプローチにつなげる布石でもある。入学時は生徒間の学力差が大きいため、英語が苦手な生徒にも、どうやったら答えられるかを示しておくべきである。また、英語による指示も極力短く、表情やしぐさ、板書による補助などを交えて、英語による回答を促すようにしたい。

授業では英語による簡単な導入をした後、モデル音声を聞かせる。この間、机間巡視で確認し、予習していない生徒には小声で Why didn't you finish? などと釘を刺し、書いてあれば Good! と誉めてあげる。バランス的には肯定的評価を7～8割くらいにしておくといい。まずは「事前にやらないことは恥ずかしい」という雰囲気を作ることが大事である。

次に英語が苦手な生徒にも答えられるように、OK, please share your answers. でペアワークを行い、事前に答えを確認させておく。答えられない生徒の中には少なからず、自信が無くて答えられない者もいる。一言、Don't worry. If your answer is wrong, then your partner's answer is wrong. などといって笑ってあげると安心して間違えることができる。

それでも答えられず、「わかりません」「読めません」と答えてくる生徒もいる。「わかりません」は早期に無くしたいので、できるだけ毅然とした態度で Where is the key word? と繰り返し聞き、見つけたら OK, read THAT sentence. と指示する。この時、THAT を強めに発音することで指示を短くできる。実際場面の言語使用では抑揚などが大事な意味を持ってくる。教員の発話にもこのことを生かすことが大事であろう。

「読めません」は少し難敵である。やってあるかどうか確認した上で、もし正解ならば Which word? と聞いてみる。当然知っているべき単語なら Listen to the CD carefully next time. などと釘を刺した上で Listen and repeat, ×××. と続ける。新出単語ならばやはり CD を聞いておくようにと釘を刺した上で It's a new word. Just try. You can make mistakes. (この時は口元で手を開閉させるしぐさを交えてあげるとよいだろう)。

すぐに正解が出た場合も、「どうやったら答えられるか」を周知徹底させたいので、単に Good! Excellent! で終わらせず、Good. Where do you find the answer? Line...? と答えの根拠になる部分を指摘させることも忘れてはならない。

問題の設定はトピックセンテンスが答えになるようにしておく、要約につなげられる。実際、予習

プリントでは質問と答えをよく読めば概要が分かるようになっており、最初の段階では日本語であらすじをまとめさせるようにしている。

### OUTLINE

インドのカバディについて：カバディでは一方のチームの「レイダー」と呼ばれる人が（相手の選手を追いかけ）ます。レイダーの目的は（できるだけ多くの相手チームの選手にさわって、一息の内に自分の陣地に帰ること）です。レイダーはその間中、ずっと（「カバディ」と言いつづけ）なければなりません。一方、相手チームには「ストッパー」と呼ばれるプレーヤーたちがいて（レイダーをつかまえようと）します。でも4000年以上も昔は、このカバディは（もっと危険なスポーツ）でした。

\* 実物はカッコ内をホホワイトで消してある

慣れてくれば、キーワードの下線ははずすことができるし、生徒の回答までの所要時間も短くなってくる。質問の内容も難しくすることができる。プリントに書かれていない後追い質問に答えられるようになってくれば更によい。また、OUTLINEの部分も徐々に英語でできるように指導していくと英語による要約とプレゼンテーションの練習にもなる。読後の内容確認に、教科書を閉じさせて質問をしてもよい。大事なことは一度に欲張らず、少しずつレベルを上げていくこと、そして何度も繰り返すことに尽きる。

## 4 文法指導・辞書指導はどうするか

「授業は英語で」というと必ず「内容理解は大丈夫なのか」「文法指導は大丈夫なのか」という質問があがるが、答えは簡単である。「授業は英語で」は「授業外も英語で」ではないのである。新学習指導要領では第8節第4款に「音声指導の補助として、発音記号を用いて指導することができること」「辞書の活用の指導などを通じ、生涯にわたって、自ら外国語を学び、使おうとする積極的な態度を育てるようにすること」という記述がある。だが、授業で発音記号や辞書の引き方を全て英語で説明することは効率的ではない。授業ではポイントを絞って短い時間で説明し、詳しくは辞書・参考書・ハンドアウトで確認させればよい。もちろん、それらが日本語で書かれていたとしても、生徒の理解度に応じて許容されるべきである。

スモールステップ&スパイラルの原則はここでも

生かされる。文法事項や辞書の引き方の指導は毎回行うがその分量は最低限に絞るのである。前述の予習プリントにも辞書の引き方が示してあるが、この程度の記述しかしていない。

1. 5

- The player **runs after** the opposing players.  
・ **run after** ( )

これだけで5行目の文中のrun afterは熟語表現で、辞書は下線部のrunを引けばいいことを示している。

少し複雑な部分には日本語も使っている。一つには英和辞典では辞書記号に日本語が使われている場合が多いからでもある。

11. 6-7

- They **disguised** their training **as** a type of dance party.  
・ **disguise ~ as ...**  
【辞書で確認】 **disguise** [他] で [with, by, in/as] の記号を見つけ、例文を見てみよう

複数の意味がある語句の場合、辞書記号を使って特定の情報を見つけることは文法意識を高めるのに役立つ。余談だが、電子辞書を批判する教員の中に、「電子辞書は一覧性（一度に目に入る情報量）が少ないから駄目だ」という議論をするものがあるが、一覧性に頼る指導、すなわち、「見えている範囲で適切と思われる意味を探す」的な辞書指導は正しい辞書指導ではない。構文や品詞を見極めて辞書記号を使い意味の絞込みができるようにするのが辞書指導である。授業では実際に全員で辞書を引かせるが、紙辞書と電子辞書が併存するクラスなので、例えば「電子辞書の人、[自]の部分の関係ありませんから[ページ送り]のキーを押して飛ばしてください。[他]まで行ったら止まって。紙辞書の方は[他]の記号を見つけたらそこを見て」のように双方の引き方を「読み合わせ」することになっている。

辞書指導だけでなく、文法指導も同様に、「文法書の〇〇ページを見ること」という但し書きをハンドアウトに入れている（ここでは例を割愛する）。こちらも言語活動の時間を削らない程度に量を制限し、説明主体にならないように注意しなければなら

ない。授業では文法事項・辞書指導で出てきた項目を定着させるための言語活動をすることが大事で、「調べること」「説明を聞くこと」が主体ではないのである。むしろ「調べること」が家庭で自然にできるように工夫してこそ新学習指導要領の趣旨に沿っているのではないだろうか。

## 5 設問の種類と言語の働き

新学習指導要領では「言語の使用場面の例」と「言語の働きの例」が列挙されている。英問英答をする場合も、単に内容確認だけではなく様々な設問で様々な「言語の働き」を含む言語活動をさせる必要がある。

特定の「言語の使用場面」では特定の「言語の働き」や特定の語彙が多く使われることが知られている。さらに、私の専門の語彙意味論の点で言えば、同じような意味を持つ動詞は同じような文構造をとりやすいことが知られている。Levin (1993) を参考にすると、特定の文構造中に使われる代替語を見つけやすいだろう。様々な「言語の使用場面」を設定し、様々な「言語の働き」に着目することは様々な語彙や様々な構文を自然に使う機会を増やすことになる。

以下に授業で行う英問英答をレベルアップさせるうえで有益と思われる設問のタイプをあげてみる。

### 書かれていない情報について推測させる

[使用される言語の働き] 推論する

やり方次第で初期段階から導入可能の設問である。推測させるものについては本文の内容から推測できるものでも、まったく当て推量で答えなければならぬものでもかまわない。本文を読む前のスキーマ活性化のために、本文イラストなどから内容を推測させる活動などがよいだろう。また *Unicorn English I* なら Lesson 4 で「ドーン氏の仕事は何か」推測させることもできるし（農業・鉄道会社・道路工員・乳製品工場・庭師）、Lesson 7 なら「地雷一つがどのくらいの値段か（諸説あるが300円くらいからある）」、Lesson 9 なら「それぞれの絵のモチーフが何を表していると思うか」、など聞くとよいだろう。答えがオープンエンドになるのでグループワークなどで生徒の心理的負担を軽くしてあげる必要がある。言語材料としては maybe/perhaps などの副詞や、I guess, It seems that ~ などの表現、may や must などの助動詞を練習す

るいい機会になるはずである。当て推量型の場合、生徒には正解する必要が無いことをあらかじめ言っておき、自由に言わせることが大事である。

### 自分の解決策を提案する

〔使用される言語の働き〕 主張する・説明する

「～すべきだ」「～しなければならない」「～したほうがよい」「～したらどうか」など、モダリティを含む発話は「学校での学習や活動」以外でも「家庭」「職場」「地域」などの現実場面で多用される。because... と理由をつけさせれば、様々なディスカッションでも役に立つことだろう。また、「自分なら」という視点で答えさせるなら仮定法の練習もできる。Unicorn IならばLesson 7で「どのようにしたら地雷を廃絶できるか」、Lesson 8で「どのようにしたら宇宙人を発見できるか」など聞くとよいだろう。これもオープンエンドの答えになるのでグループワークが望ましい。発表させても聞いているほうが理解できないのでは効果が薄いので、語彙力が不足しているクラスでは、生徒たちが和英などで調べた語彙はあらかじめ机間巡視で確認しておき、板書するなどして他のグループと共有しておく。

### 平易な言葉で言い換える

〔使用される言語の働き〕 言い換える・聞き直す

ある程度語彙力がついてきたところで徐々に導入したい活動である。まずは前述の概要把握の英問英答で、新出語句が入った回答の後追い質問にWhat does ○○ mean? Say it in easy English, please. という感じでよいだろう。簡単な言い方をするように頼むフレーズが定着してきたら、生徒同士の発表の際に使わせるようにするといいい。

### 個人的反応を述べる

〔使用される言語の働き〕 賛成する・反対する：

褒める・驚く・感謝する・望む・心配するなどここで挙げた言語の働きは前半の「賛成する」「反対する」が「考えや意図を伝える」、後半の5つは「気持ちを伝える」に分類されている。頻繁に使われる構文・語彙がそれぞれ異なるので気をつけたい。Unicorn Iでは内容に関して賛否が分かれる題材は扱っていないが「気持ちを伝える」活動に向けた教材は多いように思われる。賛否を導く設問はおそら

く前述の「自分の解決策を提案する」活動の補助として使われることになるだろう。

教科書の題材として、一方からの視点で書かれたものばかりでなく、様々な意見が述べられたものが無いと、「賛成する」「反対する」に分かれての意見が出にくくなる。センター試験第3問の座談会・討論会問題にも関連するところであり、今後教科書を作成する際に改善を希望したい。□

### 参考文献

Levin, B. (1993) *English Verb Classes and Alternations — A Preliminary Investigation*, The University of Chicago Press, Chicago, IL.

(p.7 からつづく)

途中で与えた英語の資料を食い入るように読む生徒の姿が印象的だったし、最後に個人で英作文をさせたところ50語を5分で一気に書いた生徒がほとんどであった。その集中力を引き出したのが、ジグソー法による「学びの主体としての意識」ではないかと考える次第である。

## 7 今後に向けて

教材の準備の負担が課題であるが、それは教員同士が協調的に協力しデータバンク的に教材をストックすることで解消できるのではないかと考える。英語教育の目的と手法を再考して、教師と生徒の双方が、もう少し楽になりながら、新しい学びの可能性を探訪できればと考えている。以下に紹介するURLに教材の蓄積と紹介がはじまっているのは是非多数のご参加を待望している。さらには教科書を中心とした協働学習用のワークシートの共同制作などもお手伝いできたらと考えている。□

### 参考文献等

- 1) Harvard Business Report (2011 July - August)
  - 2) 三宅なほみ他。「協調が生む学びの多様性」(2011) 大学発教育支援コンソーシアム推進機構
  - 3) <http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>
  - 4) *New Edition Unicorn English Course II* (文英堂)
  - 5) 未来の車の資料作りには、日産自動車、テスラ社などのホームページを参照した。
- (図1・2) (<http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>)